

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670105206号		
法人名	社会福祉法人 恵心会		
事業所名	清谿園 グループホーム どんぐり		
所在地	〒891-0105 鹿児島市 中山町 5 2 1 7 番地 (電 話) 099-264-6600		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年3月12日	評価確定日	平成21年3月21日

【情報提供票より】(平成21年 2月24日 事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 3 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤15人, 非常勤0人,	常勤換算15人

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	1階部分	

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	19,500円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	350 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

## (4) 利用者の概要 ( 2月 24日現在 )

利用者人数	18 名	男性 0 名	女性 18 名
要介護1	3名	要介護2	5名
要介護3	7名	要介護4	3名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 86.5 歳	最低 77 歳	最高 96 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ほりのうち内科、わかもと歯科医院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

特別養護老人ホームや居宅支援事業等、介護サービスを多角的に展開する法人を母体に設立された、自然環境に恵まれ、地域との交流を大切にしている明るく清潔感のあるホームである。職員は全員常勤者で、資格取得にも積極的に取り組んでいる。職員は良きチームワークで、日々利用者本位のケアに取り組んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	重度化や看取りの方針について管理者を中心に全職員で話し合いを行ない、本人・家族・主治医と相談しながら、取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	スタッフ研修で自己評価をもとに研修を行なった。昨年の外部評価の結果についても全職員で話し合いを行い、取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会議を行い、外部評価の報告や地域の行事への参加等の話し合いをしている。昨年地域の文化祭への参加は、地域の活性化が進んだとして、今年も参加を依頼されている。充実した話し合いでサービス向上に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会や、運営推進会議に家族の参加を呼びかけ、面会時には意見や要望を聞いたりしている。「面会簿を利用者の部屋に置いてほしい」との要望に即対応して喜んでもらった、迅速な対応への取り組みをしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、清掃活動や文化祭等の行事の参加で交流を図っている。また、防災訓練も地域の方々の参加・協力を得ながら行なっている。地域のボランティアの訪問や保育園児との交流があり、高校生や大学生の実習の受け入れも行い地域との交流が活発である。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの内容と役割について、全職員で話し合いを行い理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有するために、朝夕の申し送り時やスタッフ研修会などで確認し合いながら、管理者と職員は日々のケアで実践している。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の文化祭や清掃活動等に参加して交流を図り、あいご会への協力も行なっている。ボランティアの訪問、保育園の子供達との交流や高校・大学生の実習受け入れも行なっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が外部評価の意義について、スタッフ研修会で話し合いながら、改善点などの取り組みをしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況報告や意見交換を行なっている。昨年は文化祭に参加することを話し合い、地域の活性化につながった。今年も参加依頼がきている。また、防災訓練の協力等の意見や話し合いがされ、有意義に開催している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターとの連携が密で、市の介護相談員ともいろいろな情報交換を行ない、サービスの向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族への通信報告書を作成している。個々の生活の様子等や本人の近況写真や金銭出納帳のコピーで報告している。職員の異動は、面会時に紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年一回行なっている。面会時に声をかけをし、意見や要望など話を伺っている。運営推進会議にも参加してもらいそこで意見を聞き運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と馴染みの関係を大切にしているため、異動は最小限にしている。新しい職員は利用者との馴染みの関係ができるまで担当の職員が一緒にケアを行なう体制である。家族には面会時に紹介している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会や外部の研修会に参加している。また、職員は資格取得に前向きであり、管理者も職員の資格取得に協力している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	谷山地区グループホームの勉強会に参加している。近隣のグループホームとの交流を図りながら、相互訪問や情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者や家族に来てもらい、職員や他の利用者に馴染めるよう家族と相談しながら取り組みを行なっている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生経験豊富な会話の中から、人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、お互いに支えあう関係作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、本人や家族に声をかけ、会話や表情・行動等を見ながら、希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に職員が話し合いを行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、本人・家族の思いや意見を聞いたり、職員間で話し合いながら、介護計画の作成を行なっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当者会議を行ない、状態の変化が生じた場合や必要時には、本人・家族・職員と話し合いを行い、検討・見直しを行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助・自宅訪問・美容室等へ利用者や家族の要望や状況に応じて、柔軟に支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医に相談し、薬や診察を行なっている。歯科も訪問診療をしている。重度の方は家族にお願いしているが、家族と連絡を取りながら適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の希望を聞きながら、かかりつけ医と話し合いを行ない、全職員で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さりげなくプライバシーに配慮しながら対応し、記録や個人情報の取り扱いも配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日のスケジュールはあるが、起床時間や朝食時間は本人ペースで行ない、利用者の希望にそって支援するよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや茶碗の準備・テーブル拭きなど、一人ひとりの力量に応じて一緒に行ない、楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴を希望する人もいるが、体調や本人の希望を聞きながら、入浴支援を行なっている。入浴を拒む人には、仲のよい方や家族に協力してもらうなど工夫して、入浴支援を行なっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事等の役割や花を育てたり・らっきょう漬・干し柿・テレビ観戦・畑仕事等、楽しみごとの支援を行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食後は広い庭でくつろいだり、踊りを踊ったりしている。また、天気の良い日は、散歩に出かけるなど、希望にそって外出支援を行なっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけることへの弊害を理解している。職員が目配り・気配りを行ないながら、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、地域の方々の協力をもらいながら、夜間想定・消火器の使い方等の消防訓練を行なっている。災害時の備蓄は、食物等を準備している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や嗜好・栄養のバランス・水分のチェックを行なっている。栄養士は、体調や栄養バランスに配慮した献立を工夫している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は明るいきりびんぐやウッドデッキ・広い庭でゆったりと過ごしている。玄関には花や飾り付けがされ、畳の部屋は、仏壇・掛け軸・生け花・コタツが置いてあり、居心地よく過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく清潔感のある部屋にタンス・仏壇・椅子・鏡台などの馴染みの物や花鉢・家族の写真・孫の絵等、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNET に公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。